

作成日：2004 年 4 月 1 日

改訂日：2020 年 1 月 1 日

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名 プライマーAQ

会社名 日新工業株式会社

住所 〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

担当部門 技術部

電話番号 048-755-6188 FAX 番号 048-755-6177

緊急連絡先 03-3882-2613 営業総務課

奨励用途及び使用上の制限 工業用（建築用塗材 等）

整理番号 AR-P001

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体	区分外	呼吸器感作性	分類できない
急性毒性 経口	区分外	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性 経皮	区分外	発がん性	分類できない
急性毒性 吸入（ガス）	分類できない	生殖毒性	分類できない
急性毒性 吸入（蒸気）	分類できない	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	分類できない
急性毒性 吸入（粉じん、ミスト）	分類できない	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない	吸引性呼吸器有害性	分類できない
眼損傷/刺激性	分類できない	水生環境有害性(急性)	区分外
皮膚感作性	分類できない	水生環境有害性(長期間)	区分外

※ 記載のない危険有害性は「分類対象外」、「分類できない」または「区分外」

GHSラベル要素：なし

注意喚起語：なし

注意書き

<安全対策>

- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。
- ・ 保護眼鏡／保護面を着用すること。

<救急処置>

- ・ 眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

プライマーAQ

- ・ 眼の刺激が続く場合は医師の診断／手当てを受けること。
- ・ 取り扱った後、手を洗うこと。

<保管>

- ・ 換気のよい場所で保管すること。涼しいところに置くこと

<廃棄>

- ・ 内容物や容器を、国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

GHSに該当しない他の危険有害性

有害性：眼に入ると刺激がある。

継続的な皮膚接触により炎症を起こす場合がある。

物理的及び化学的危険性：特になし

重要な徴候：特になし

想定される非常事態の概要：特になし

国／地域情報：分類基準に該当しない

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

製品は混合物

化学名

アスファルト

一般名

アスファルト系水性プライマー

成分	含有量 (%)	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
アスファルト	20~30	特定できない	(9)-1720 (化審法) (12)-189 (安衛法)	8052-42-4
ブタジエン-スチレン - アクリル酸系共重合体	10~20	非公開	非公開	非公開
水 等	60~70	非公開	非公開	非公開

4. 応急措置

吸入した場合：

- ・ エマルジョンは水を分散媒体とした揮発性の低い水性液体で吸入の可能性は少ない。
もし気分が悪くなった時は、空気の清浄な場所に移り安静にする。

皮膚に付着した場合：

- ・ 接触部位を水・石鹸で十分洗い流す。
- ・ カブレの出た場合は医師の診断を受ける。

目に入った場合：

- ・ 清浄な水で15分以上眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。

飲み込んだ場合：

- ・ 直ちに医師の処置を受ける。

最も重要な兆候及び症状：

- ・ 特になし

応急処置をする者の保護：

- ・ 救助者が有害物質に触れないよう手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

医師に対する特別注意事項：

- ・ 特になし

5. 火災時の措置

消火剤：	本製品は水を多量に含む為、そのままでは引火・発火等の燃焼性はない。もし、製品乾燥物に着火した場合は次の処置をとる。 水、炭酸ガス、ドライケミカル等一般消火剤。
使ってはならない消火剤：	特になし
火災時の特有の危険有害性：	特になし
特定の消火方法：	製品乾燥物に着火した場合は、注水・水噴霧・ドライケミカル等一般消火剤を使用し消火は風上から行う。
消火を行う者の保護：	消火作業では適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク、給気式呼吸用保護具）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項/保護具及び緊急時措置：

出来るだけ直接皮膚に触れないようにし、保護手袋（ゴム又は樹脂性）、保護眼鏡（ガラス又は樹脂性のゴーグルタイプ）、長靴（ゴム製）を着用する。

環境に対する注意事項

万一、公共水域へ流出した場合は、必要に応じて所轄の消防署、警察署等の監督官庁へ届け出て下さい。

本製品は河川・湖沼等に流入すると少量でも広範囲にわたり汚濁させる。

河川・湖沼等公共水域及び下水への流入は絶対に避ける。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

漏出源を遮断し、漏れを止める。

少量の場合、乾燥砂・オガクズ・ウエス等に吸収させ回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから回収する。

二次災害の防止策：

特になし

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	容器から漏出させないようにし、保護手袋・保護眼鏡・マスクを着用する。
局所排気・全体排気：	特になし
注意事項：	室内での取扱いには換気を良くする。
安全取扱い注意事項：	取扱い後、うがいを行い石鹸で手を洗うこと。

保管

技術的対策	：	特になし
-------	---	------

適切な保管条件 : 直射日光を避け、凍結を避けるために密閉容器で5～40℃の室内に保管する。

安全な容器包装材料 : 弊社の容器及びSUS製容器等

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 使用に当っては換気を良くする。
換気の悪い場所を使用する場合、換気装置を設置する。
取扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設置することが望ましい。

管理濃度及び許容濃度 :

成 分	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会(2005)	ACGIH ^b (2009)
アスファルト	設定されていない	勧告値なし	時間荷重平均 (TWA)値 0.5 mg/m ³ (アスファルトフェームとして)

保護具 :

呼吸器の保護具 : 特になし

手の保護具 : ゴム又は樹脂性が良い。

眼の保護具 : ガラス又は樹脂製のゴーグルタイプが良い。

皮膚及び身体の保護具 : 厚手の布製で長袖、長ズボンを着用することが望ましい。

適切な衛生対策 : 作業後、手を良く洗い、うがいをしてから喫煙、飲食等をする。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 : 液体。

色 : 黒色。

臭い : ラテックス臭。

pH : 9～10

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲 : データなし。

融点 : データなし。

沸点 : 100℃。

初留点 : データなし。

引火点 : データなし。

発火点 : データなし。

爆発特性 : データなし。

蒸気圧 : データなし。

蒸気密度 : データなし。

比重 (相対密度) : 1.00(g/cm³) (25℃)

溶解性 : 水に混和する。

オクタノール/水分配係数 : データなし。

分解温度 : データなし。

その他のデータ：特になし

10. 安定性及び反応性

反応性：	水との反応性は無い。
化学的安定性：	常温で安定である。
避けるべき材料：	加熱・高温・直射日光・氷点下。
危険有害な分解生成物：	データなし。
混触危険物質：	水禁忌物質と同一場所での保管は避ける。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)：	アスファルト；ラット LD ₅₀ 5000 mg/kg以上
急性毒性(経皮)：	アスファルト；ウサギ LD ₅₀ 2000 mg/kg以上
急性毒性（吸入）：	データなし
皮膚腐食性／刺激性：	データなし
眼に対する重篤な損傷／刺激性：	アスファルト；常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。 減圧蒸留残渣油として、ドレイズテストの結果、軽度の刺激性が確認されている。 アスファルト蒸気／ヒュームによる結膜炎、眼刺激性が複数報告されているが、回復性のものではあったとの記載がある。 溶融アスファルトから発生するガスは、呼吸器系や眼の粘膜を刺激する。
呼吸器感作性／皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性	アスファルト；アスファルトヒュームまたはアスファルトヒューム凝縮液、アスファルトペイント等による各種試験結果があり、生殖細胞変異原性については陽性／陰性のデータが存在する。
発がん性：	アスファルト；道路舗装等のストレートアスファルトによる長期間に及ぶ「アスファルト・エミッション」による職業ばく露について IARC は、「グループ 2B」（人に対して発がんの可能性はある）に分類している。なお IARC は「アスファルト・エミッション」を「加熱され気化した物質及び気体、及び気体となったアスファルトが空気中で凝集し、小さな粒となり雲状になったヒューム」と規定し、「道路舗装」を「アスファルト混合物製造、運搬、舗設に関わる作業」、「職業ばく露」を「作業者が 1 日に 4～9 時間程度を長期間にわたりさらされること」と規定している。

EU CLP 規則(1272/2008/EC) 付属書VI Table 3.1
及び Table 3.2 に記載されていない。(有害性として分類されない)

生殖毒性： データなし

特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）： データなし

特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）：アスファルト；常温におけるほぼ固体状態での有害性に関するデータは確認できない。

アスファルトヒュームの吸入試験(マウス、6～7h／日、5 日／週で 21 ヶ月)で気管浸潤、気管支炎、肺炎、膿瘍、繊毛損失、上皮萎縮及び皮膚肥厚が認められた。

ヒトにおいて、ヒュームの吸入経路で鼻炎、口咽頭炎、喉頭炎、気管支炎、ヒュームの経皮暴露では皮膚炎、ざ瘡（にきび）様の病変、軽度角化症が報告されている。また実験動物において、マウスを用いた吸入毒性試験において呼吸器に影響がみられているが、ばく露濃度の記載がなく分類に用いることはできない。

吸引性呼吸器有害性： データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類： データなし

甲殻類： データなし

藻類： データなし

残留性／分解性： ヒュームの揮発性成分は大気中のヒドロキシラジカルと反応する。水中では、アスファルトは分散性は乏しく、浮くか沈むかである。土壌中では移動性はない。

生体蓄積性： アスファルトの構成成分の log Kow は 6 以上なので生体蓄積性があると判定されるが、実際には、極めて水に難溶であり、このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。

土壌中の移動性： 土壌中では移動性はない。

他の有害影響： 知見のない項目が多いので、一般環境内への廃棄は行わない。

13. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

加熱により、硫化水素／一酸化炭素を発生する場合がある。発生するミスト／煙／蒸気／ヒュームを吸い込まないように廃棄する。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連分類：	分類基準に該当しない
国連番号：	分類基準に該当しない
品名（国連輸送品名）：	分類基準に該当しない
容器等級：	分類基準に該当しない
海洋汚染物質：	有害液体物質 Y 類相当品
MARPOL 品名：	分類基準に該当しない

国内規制： 特になし

特別の安全対策： 特になし

輸送の特定の安全対策および条件：

直射日光を避け、5～40℃で輸送する。

容器の破損、漏れのないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、容器破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

応急措置指針番号： なし。

15. 適用法令

消防法：	該当しない
安衛法第 57 条の 2：	アスファルト 通知対象物質 政令番号 11 の 3
海洋汚染防止法	油分排出規制
水質汚濁防止法	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

16. その他の情報

参考資料

独立行政法人 製品評価技術基盤機構（N I T E）ホームページ G H S 分類結果データベース
 原料メーカーの S D S
 日本塗料工業会編集 「原材料物質データベース」
 製品安全データシートの作成指針（改訂版）日本規格協会（2001年10月）
 日本工業規格 J I S Z 7253：2012 G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
 危険物船舶運送及び貯蔵規則 14訂版 海文堂

- (1) このデータシートは、製品に関する情報提供を目的としたものであって、その記載内容に関し、弊社が売主その他の立場で保証責任を負うものではありません。
- (2) このデータシートは、作成日又は改訂日までに弊社が入手した情報に基づいて作成しておりますが、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。
- (3) このデータシートは通常想定される保管方法および取扱い方法の範囲における情報提供です。したがって、特殊な保管又は取扱いを行う場合は、その保管又は取り扱いに適した安全対策を実施の上ご利用下さい。
- (4) 本製品の貴社の用途に対する法規制、適合性及び安全性については、弊社では確認しておりませんので、

プライマーAQ

調査又は試験により確認の上ご使用下さい。

- (5) 貴社において本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法等輸出関連法規を遵守の上、輸出してください。